

保有契約高の減少に対応する生命保険会社

調査研究部 次長 小塚 英夫

生命保険会社の保有契約高の減少が継続している。背景として、我が国の少子高齢化および金融緩和の影響が想定される。本稿では、平成23年度以降を観察期間として、生命保険会社各社の経営を数値面から確認し、その特徴を把握することとしたい。なお、平成29年度生命保険会社決算の特徴については今号掲載の「生命保険会社の平成29年度決算について」を参照いただきたい。対象とする生命保険会社は、かんぽ生命を除く大手19社合計(以下「19社計」)とする。また、保有契約高が伸長している6社合計(以下「純増6社計」)と19社計とを比較し、保有契約高の推移の差による経営の特徴を把握することとする。

1. 保有契約高の推移 (表1参照)

19社計の保有契約高は、平成29年度までの間、個人保険については減少が続き、平成29年度末で9.7%の減少(伸長率は平成23年度対比平成29年度末の伸長率。以下同じ)となっ

た。個人年金保険、団体年金保険はそれぞれ14.5%、11.1%と伸長したが、団体保険は横ばいであり、個人保険の減少をカバーしていない。新契約高は、平成28年度までは個人保険、個人年金保険が伸長しているが、平成29年度末で個人保険16.8%減、個人年金保険17.3%減となった。

一方、純増6社計の保有契約高では、個人保険42.1%増、個人年金保険62.5%増、団体保険31.7%増と大幅に伸長している。新契約高も個人保険41.2%増、個人年金保険93.0%増、団体保険240.3%増と大きく伸長している。

2. 経常収支の状況 (表2、表3参照)

19社計の経常収益は0.4%増となった。経常収益の伸長率への寄与度では、保険料収入が△4.7%であるものの利息及び配当金収入が+3.9%、その他資産運用収益が+0.8%となった。なお、保険料収入は、個人年金保険で平成23年度対比平成28年度14.8%増だが、個

(表1) 保有契約高および新契約高

(単位:10億円、%)

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	伸長率	
19社計	保有	個人保険	800,334	785,390	770,198	758,119	747,323	741,700	722,327	△ 9.7
		個人年金保険	83,081	87,162	88,574	91,910	92,243	96,841	95,119	14.5
		団体保険	355,726	354,359	353,339	353,157	354,302	354,558	356,708	0.3
		団体年金保険	31,142	31,689	51,727	33,342	33,702	34,095	34,599	11.1
	新契約	個人保険	506,973	551,035	532,647	540,706	553,255	543,942	422,055	△ 16.8
		個人年金保険	79,609	96,599	77,096	82,128	82,650	107,539	65,801	△ 17.3
		団体保険	29,862	31,217	44,191	31,661	32,199	20,412	37,813	26.6
		団体年金保険	87	198	24	457	102	77	41	△ 53.4
純増6社計	保有	個人保険	99,956	107,216	113,358	120,864	127,602	135,702	141,991	42.1
		個人年金保険	7,281	8,058	8,613	11,654	11,660	11,685	11,831	62.5
		団体保険	9,234	9,212	9,131	9,305	10,725	11,473	12,162	31.7
		団体年金保険	63	61	59	21	17	15	13	△ 78.4
	新契約	個人保険	12,111	14,960	13,688	15,796	16,623	17,382	17,102	41.2
		個人年金保険	654	921	1,277	2,062	1,685	954	1,263	93.0
		団体保険	64	731	169	106	1,199	140	220	240.3
		団体年金保険	0	0	0	0	0	0	0	—

(出所) 各社決算発表およびディスクローズ資料より作成

(注) 1. 数値は単位数字未満切捨(以下同)

2. 19社計：日本生命、明治安田生命、第一生命、住友生命、アフラック生命、ジラルタル生命、メットライフ生命、ソニー生命、第一フロンティア生命、三井生命、太陽生命、東京あんしん生命、アクサ生命、富国生命、大同生命、三井住友海上プライマリー生命、朝日生命、ブルデンシャル生命、三井住友海上あいおい生命(以下同)
3. 純増6社計：ソニー生命、第一フロンティア生命、東京海上あんしん生命、三井住友海上プライマリー生命、ブルデンシャル生命、三井住友海上あいおい生命(以下同)

人保険が同2.3%減、団体年金保険が同21.7%減、その他が同67.6%減となっている。一方、経常費用は1.0%減となった。経常費用の伸長率への寄与度をみると、保険金等支払額が+4.0%、事業費は+0.8%であるが、責任準備金等繰入額が△7.0%となった。この結果経常利益は、4,427億円増となっている。

純増6社計は、保有契約の伸長に伴い経常収益は110.9%伸長した。経常収益への寄与度では、保険料収入が+84.5%、利息及び配当金収入が+9.6%、その他が+26.3%と大幅な伸長となった。なお、保険料収入は、平成23年度対比平成28年度で個人保険が99.8%増、個人年金保険が同36.7%増、団体保険が同47.9%増と大幅に伸びている。一方、経常費用は112.2%増となった。経常費用の伸長率への寄与度をみると、保険金等支払額が+56.6%、責任準備金等繰入額が+35.7%、資産運用費用+11.9%等となった。この結果経常利益は975億円増となった。

(表2) 損益計算書の推移

(単位:億円、%)

19社計	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	(参考)
経常収益	345,601	379,127	363,470	395,802	374,899	349,966	346,916	0.4
保険料収入	268,723	276,863	262,194	281,796	289,987	254,852	252,389	△ 4.7
利息及び配当金収入	45,267	48,118	52,470	55,370	56,015	55,779	58,582	3.9
その他資産運用収益	12,265	25,667	22,783	26,485	8,428	14,375	15,008	0.8
その他	19,344	28,477	26,021	32,149	20,468	24,958	20,936	0.5
経常費用	325,196	359,616	338,720	367,090	351,292	326,570	322,084	△ 1.0
保険金等支払額	174,260	179,809	194,623	213,778	203,989	186,392	187,267	4.0
責任準備金等繰入額	85,749	114,240	82,846	90,459	74,774	75,490	63,039	△ 7.0
資産運用費用	16,861	16,279	12,712	12,804	22,078	15,721	23,417	2.0
事業費	33,893	34,500	34,727	35,184	36,478	36,249	36,530	0.8
その他	14,431	14,786	13,810	14,862	13,970	12,716	11,830	△ 0.8
経常利益	20,404	19,510	24,749	28,711	23,607	23,396	24,831	4.427
特別損益	△ 2,738	△ 4,591	△ 5,571	△ 5,565	△ 4,732	△ 5,351	△ 5,422	△ 2,684
配当準備金繰入	1,454	1,824	1,867	2,195	1,992	1,813	1,829	375
税引前当期純利益	15,060	11,637	14,295	16,483	14,540	13,992	15,038	△ 22

純増6社計	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	(参考)
経常収益	33,543	48,094	58,221	73,370	70,230	61,461	70,738	110.9
保険料収入	27,353	34,093	45,939	55,418	59,654	49,298	55,713	84.5
利息及び配当金収入	2,681	3,012	3,480	4,359	4,921	5,439	5,901	9.6
その他資産運用収益	△ 2,681	△ 3,012	△ 3,480	△ 4,359	△ 4,921	△ 5,439	△ 5,901	△ 9.6
その他	6,189	14,001	12,281	17,952	10,576	12,163	15,024	26.3
経常費用	32,282	46,359	56,695	71,795	68,129	59,134	68,502	112.2
保険金等支払額	13,219	16,686	22,213	32,307	29,513	26,903	31,480	56.6
責任準備金等繰入額	14,278	24,280	28,399	31,911	26,889	24,595	25,805	35.7
資産運用費用	581	597	524	1,040	4,568	1,007	4,417	11.9
事業費	3,751	4,250	4,857	5,650	6,183	5,646	5,729	6.1
その他	451	545	700	885	973	981	1,069	1.9
経常利益	1,260	1,735	1,525	1,575	2,101	2,327	2,235	975
特別損益	△ 252	△ 373	△ 343	△ 220	△ 305	△ 449	165	417
配当準備金繰入	109	225	151	202	170	176	123	14
税引前当期純利益	899	1,136	1,030	1,152	1,625	1,701	2,278	1,379

(出所) 各社決算発表 損益計算書 (単体) より作成

(注) 「(参考)」欄

「経常収益」「経常費用」欄は29年度末の23年度末比伸長率 %表示

経常収益の内訳項目、経常費用の内訳項目の欄はそれぞれ「経常収益」「経常費用」の伸長率の内訳 (寄与度) %表示

「経常利益」「特別損益」「配当準備金繰入」「税引前当期純利益」は (29年度末-23年度末) 億円表示

(表3) 保険料収入の推移

(単位:億円、%)

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	伸長率
19社計	個人保険	175,977	181,621	174,132	183,450	191,660	171,960	△ 2.3
	個人年金保険	33,552	33,347	33,119	40,707	38,088	38,527	14.8
	団体保険	10,565	10,606	10,589	10,590	10,601	10,677	1.1
	団体年金保険	39,031	36,833	38,514	41,751	45,624	30,573	△ 21.7
	その他	9,596	14,454	5,839	5,296	4,013	3,113	△ 67.6
	合計	268,723	276,863	262,194	281,796	289,987	254,852	△ 5.2
純増6社計	個人保険	20,381	27,545	37,334	40,925	47,154	40,732	99.8
	個人年金保険	5,982	5,968	8,187	14,082	12,159	8,176	36.7
	団体保険	259	302	305	314	334	383	47.9
	団体年金保険	32	29	29	15	3	3	△ 88.0
	その他	26,657	33,846	45,857	55,337	59,652	49,297	△ 99.9
	合計	27,353	34,093	45,939	55,418	59,654	49,298	80.2

(出所) 各社ディスクロージャー資料より作成

共済・保険

3. 資産構成 (表4、表5、表6参照)

19社計では、資産の部合計は33.1%の伸長となった、資産の部の伸長率への寄与度では、国債が+11.5%、株式が+5.4%、外国証券が+16.2%等により有価証券が+33.5%となった。貸付金は△1.3%と有価証券中心の運用が進んでいる。負債の部は+27.7%、保険契約準備金+23.5%、引当金・準備金が+1.2%、純資産も+5.4%であり健全性向上に資している。なお、責任準備金については、平成23年度対比平成28年度で特別勘定が1.1%増、一般勘定が同24.9%増、保険リスク、予定利率リスク等の変化に対応し積立てる危険準備金も同52.7%増となっている。

純増6社計は資産の部が104.3%増、資産の部の伸長率への寄与度をみると、有価証券が+91.9%、そのうち国債+41.6%、外国証券29.3%、株式+17.8と急増する運用資金に有価証券運用で対応している状況が読み取れる。負債の部+100.2%、そのうち保険契約準備金で+94.6%、純資産+4.2%となり健全性の向上を図っている。なお、責任準備金は、平成23年度対比平成28年度で、特別勘定が48.9%増、一般勘定が同104.0%増、危険責任準備金が同88.9%増となっている。

また、個人保険、個人年金保険の一般勘定の年限別構成比は19社計に比べ直近の年度の責任準備金残高が大きい。

(表4) 貸借対照表の推移

		(単位:億円、%)								
19社計		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	構成比	(参考)
資産の部	現預金・コールローン等	40,008	51,519	49,446	64,096	60,079	64,157	73,160	2.6	1.5
	買入金銭債権等	45,471	42,573	38,923	34,204	33,004	32,417	34,416	1.2	△ 0.5
	有価証券	1,667,283	1,878,978	1,983,411	2,181,559	2,220,744	2,310,499	2,388,791	83.4	33.5
	国債	772,235	873,643	919,520	950,749	983,687	999,054	1,019,119	35.6	11.5
	地方債・社債	222,976	216,035	209,350	200,656	205,333	209,264	211,615	7.4	△ 0.5
	株式	147,108	166,731	179,744	225,434	197,545	214,101	262,283	9.2	5.4
	外国証券	453,383	539,647	588,293	693,896	724,466	776,001	801,479	28.0	16.2
	その他の証券	71,579	82,919	86,501	110,822	109,710	112,077	94,292	3.3	1.1
	貸付金	281,042	274,228	269,590	267,166	258,956	258,954	252,182	8.8	△ 1.3
	有形固定資産	64,359	62,430	60,989	60,818	59,922	58,857	58,910	2.1	△ 0.3
	その他	53,072	38,065	36,958	41,189	49,888	47,373	56,414	2.0	0.2
	資産の部合計	2,151,338	2,347,835	2,439,358	2,649,192	2,682,674	2,772,354	2,864,014		33.1
負債の部	保険契約準備金	1,938,633	2,050,984	2,131,449	2,240,838	2,310,748	2,383,314	2,443,205	85.3	23.5
	その他負債	77,666	105,967	92,848	91,580	84,901	99,185	109,460	3.8	1.5
	引当金・準備金	25,064	28,933	33,112	36,326	39,751	44,730	50,115	1.7	1.2
	その他	13,917	20,372	23,919	46,862	39,635	43,288	48,824	1.7	1.6
	負債の部合計	2,055,477	2,206,610	2,281,653	2,416,159	2,476,081	2,570,982	2,652,121	92.6	27.7
純資産の部合計	95,860	141,275	157,705	232,533	206,643	201,371	211,893	7.4	5.4	
純増6社計		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	構成比	(参考)
資産の部	現預金・コールローン等	4,926	7,034	6,204	12,109	10,655	11,933	11,977	3.1	3.7
	買入金銭債権等	11,675	14,806	12,893	12,239	14,386	17,401	19,702	5.0	4.2
	有価証券	166,297	192,954	221,209	271,390	296,719	324,077	342,855	87.3	91.9
	国債	102,095	118,267	130,201	141,948	159,406	173,458	182,079	46.4	41.6
	地方債・社債	13,457	14,752	16,515	17,352	19,569	23,079	28,373	7.2	7.8
	株式	1,217	1,468	1,771	2,317	2,103	2,278	35,334	9.0	17.8
	外国証券	10,989	14,555	26,273	42,825	55,057	69,165	67,188	17.1	29.3
	その他の証券	38,538	43,909	46,446	66,945	60,582	56,094	29,879	7.6	△ 4.5
	貸付金	4,781	4,919	5,125	5,722	7,593	8,593	9,686	2.5	2.6
	有形固定資産	857	821	763	1,312	1,286	1,310	1,058	0.3	0.1
	その他	3,562	3,512	4,355	5,905	6,553	6,281	7,218	1.8	1.9
	資産の部合計	192,108	224,055	250,576	308,707	337,223	369,625	392,529		104.3
負債の部	保険契約準備金	173,377	197,779	226,189	278,945	304,720	329,339	355,099	90.5	94.6
	その他負債	9,718	14,940	12,702	14,749	14,087	20,424	16,278	4.1	3.4
	引当金・準備金	511	1,007	1,339	1,718	2,561	2,433	2,450	0.6	1.0
	その他	252	287	318	387	553	2,001	2,122	0.8	1.0
	負債の部合計	184,413	214,673	241,303	296,526	322,737	355,058	376,835	96.0	100.2
純資産の部合計	7,694	9,381	9,272	12,180	14,486	14,567	15,694	4.0	4.2	

(出所) 各社決算発表 貸借対照表(単体)より作成

(注) 「現預金・コールローン等」欄には現預金、コールローン、債券貸借取引支払保証金の合計を計上している。

「買入金銭債権等」には買入金銭債権と金銭の信託との合計を計上している。

(参考) 欄のうち資産の部合計は29年度末の23年度末比伸長率、それ以外の欄は資産の部合計の同伸長率の内訳(寄与度表示) %表示

(表5) 責任準備金の内訳

(単位: 億円、%)

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	伸長率
19社計	個人保険	1,049,504	1,125,002	1,182,052	1,254,198	1,325,245	1,386,497	32.1
	個人年金保険	490,089	514,688	515,825	540,036	531,532	536,789	9.5
	団体保険	3,368	3,319	3,302	3,269	3,248	3,201	△ 5.0
	団体年金保険	311,421	317,997	327,277	333,429	337,026	340,952	9.5
	その他	20,654	30,069	33,391	36,174	36,351	37,141	79.8
	小計	1,875,036	1,991,077	2,061,848	2,167,106	2,233,755	2,304,580	22.9
	危険準備金	27,381	28,975	34,037	37,734	39,752	41,821	52.7
	合計	1,902,418	2,020,052	2,095,884	2,204,840	2,273,507	2,346,401	23.3
		一般勘定	1,780,077	1,882,115	1,963,510	2,056,521	2,141,317	2,222,718
	特別勘定	122,341	137,936	132,375	148,318	132,190	123,683	1.1
純増6社計	個人保険	110,458	127,848	153,638	180,827	210,639	235,889	113.6
	個人年金保険	57,782	63,730	65,754	91,137	86,975	86,003	48.8
	団体保険	14	14	14	13	12	12	△ 13.2
	団体年金保険	638	614	599	216	173	156	△ 75.4
	その他	644	883	958	768	687	614	△ 4.7
	小計	169,538	193,091	220,965	272,964	298,489	322,677	90.3
	危険準備金	2,085	2,727	3,177	3,665	3,747	3,939	88.9
	合計	171,623	195,819	224,142	276,630	302,237	326,616	90.3
		一般勘定	128,904	146,867	172,541	204,376	235,548	262,999
	特別勘定	42,719	48,951	51,601	72,254	66,688	63,616	48.9

(出所) 各社ディスクロージャー資料より作成

(表6) 平成28年度末 契約年度別責任準備金残高

(単位: 億円、%)

契約年度(西暦)	19社計		純増6社計	
	残高	構成比	残高	構成比
1980	16,245	0.9	76	0.0
1981 ~ 1985	56,351	3.1	461	0.2
1986 ~ 1990	215,099	11.7	2,655	1.0
1991 ~ 1995	268,965	14.7	11,353	4.4
1996 ~ 2000	156,545	8.5	33,843	13.1
2001 ~ 2005	165,508	9.0	36,331	14.1
2006 ~ 2010	315,327	17.2	48,299	18.7
2011 ~	117,387	6.4	17,071	6.6
2012 ~	114,265	6.2	13,358	5.2
2013 ~	98,705	5.4	18,213	7.1
2014 ~	109,583	6.0	27,517	10.7
2015 ~	107,853	5.9	27,882	10.8
2016 ~	89,583	4.9	21,210	8.2

(出所) 各社ディスクロージャー資料から作成

(注) 一般勘定の個人保険および個人年金保険にかかる責任準備金(除: 危険準備金)を記載

4. まとめ

生命保険会社の保有契約高の減少および保険料収入の減少について、貸借対照表と損益計算書の推移からその対応を確認した。19社計の推移から、新契約の減少を容認しつつ、責任準備金、引当金等の積増しと純資産の拡大を図り、経営の健全性を図っていることが推測できる。

一方、純増6社計の推移から、新契約の伸長に伴い資金流入が大きく、有価証券とりわけ国債、株式および外国証券で運用し、契約

年度別責任準備金残高の構成から、引き続き運用資金が流入し続けると想定される。

保有契約高の減少のみであれば、問題は小さいが、経常収益の減少に歯止めがかからない場合は経営への影響が懸念される。金融庁のHPによれば、平成30年2月に生命保険協会と行った意見交換会において、「(前略)、供給側の論理にたって、特定の金融商品・サービスを大量に販売するこれまでのB to Cのビジネスモデルから、個人や企業のニーズにいかに対応していくかを試行錯誤する中から適切な金融商品・サービスを作り出し提供するといったC to Bへの転換も進んでいく可能性がある。」と述べており、環境に対応するビジネスモデルをいかに作り上げるかが課題となる。その際、今号に掲載した『健康分野』における最近の政府・関係省庁の取組みと生命保険会社の動向」等の課題への対応を含め、生命保険商品へのニーズを的確に把握することが必要となる。

今回、確認できた特徴として、生命保険会社は保険契約が長期に亘るため、長期的視点で経営に取り組んできたと推察される。生命保険のビジネスモデルが変更した場合、「長期的視点」での経営を維持できるかが注目される。